

次年度に向けた課題整理について

平成20年度より山岳トイレ技術分野の課題に対して、制度面・技術面の両面から以下の8項目を主なテーマとして設定し、WGにおいて優先順位をつけ検討を進めてきた。平成20年度及び21年度の成果と今後の課題について以下のとおり整理する。また、本事業の趣旨より、事業化についても合わせて検討が必要であると考えられる。

	テーマ	成果	課題	
			項目	内容
技術面	1 選定方法の確立 (未実証技術の実証、データベースの確立)	⇒新規4技術、継続2技術(19年度) 計4技術を実証(総計17技術) ⇒データベースとして、電力の必要性や水の必要性などの視点から分類した情報の配信(予定)	実証試験の実施	・新規技術の実証が必要
			事例データベースの機能向上	・利用者の使い勝手や検索性を考慮して改善
			選定のためのガイドブックの検討	・選定のための手引きを作成
	2 技術の向上 (技術面での評価指標の検討)	⇒平成20年度において、経年実証試験の試験方法の作成 21年度において1件の予備調査を実施 22年度において本調査1件が予定	経年実証試験の実施	・新規経年技術の実証が必要
			浸透技術の検討	・し尿分離型等の処理水浸透技術の取扱いについて検討。
3 維持管理手法の確立 (メンテナンスマニュアルの整備)	⇒維持管理要領書の確認項目を設定し、実証試験要領に反映	維持管理要領書作成ガイドラインの検討	・維持管理要領書の作成ガイドラインについて検討	
4 CO ₂ 削減効果の確認方法	—	—	—	
5 自然エネルギー技術との連携	—	トイレ技術に係る自然エネルギー技術実証手法の検討	・自然エネルギー技術と組み合わせたトイレし尿処理技術における実証方法の検討	
制度面	6 山岳地以外での展開 (山麓・海浜・離島等での整備ニーズ把握、未実証地域での実証)	⇒全国の都道府県市区町村にアンケート調査を実施、潜在的ニーズは存在しているものの、予算面、情報不足、管理面が課題 ⇒湖畔・山麓での実証事例として、奥多摩にて実施(平成21年度) ⇒分野名称を「自然地域トイレし尿処理技術」に変更	実証対象技術の発掘(上記1の実施に合わせて行う)	・新規技術の発掘に合わせ、北海道や西日本などの実証事例のない地域での実証を検討 ・海浜・離島地域での実証事例も上記に合わせて検討
	7 事業化方針の作成 (実施体制の効率化、試験方法の簡便化)	—(経年実証試験の実施手法検討に合わせて実施)	事業化の検討 実施体制の効率化 他政策との連携体制	・事業化(自立化)を念頭に置き、実証事業において取り扱えなかった評価等について検討
	8 情報共有システムの確立(山岳トイレネットワークの確立、研修会・シンポジウム開催)	⇒メールマガジンの開設、配信 ⇒山岳トイレ技術セミナーを開催(平成20年度;東京、平成21年度;仙台市)(仙台市にて開催したことで、東北地域での関心が高まった) ⇒技術展示会(NEW環境展大阪、世界環境共生都市博)への出展	山岳トイレ技術セミナーの開催	・開催の定例化の検討